

平成28年度 上越市算数部 活動報告

部長 村山 功

1 研究主題

「算数・数学の学力を高める授業の在り方」

～授業の中でいかに一人一人の学びを深めるか、日々の実践を通して明らかにする～

2 研究の概要

今年度の上越市算数部の活動は、上越市教育センターのスーパーティーチャー事業を活用した。スーパーティーチャーの授業を参観し、それをもとに「いかに一人一人の学びを深めるか」についてグループ協議を行った。

3 研究の実際

期日・会場 平成28年11月11日（金）上越市立大手町小学校

公開授業 5年1組 算数 「比例 ～直径と円周の関係は？～」

授業者 スーパーティーチャー 磯野正人教諭

指導者 上越市立板倉中学校長 渡辺 隆 様

(1) 公開授業について

「比例」の単元と「正多角形と円」の単元の後半で扱う直径と円周を合わせて、「比例」として展開した授業であった。6cm, 12cm, 11.4cm など、さまざまな大きさの円の直径と円周を表にして2量の関係を考えることで比例に気づき、直径がどんな長さの時でも3.14倍すると円周になることが分かる授業であった。



(2) 主題に沿ったグループ協議から

グループ協議からは次の点が挙げられていた。

- ① 課題が明確で、子どもが見通しを持ち、自分で考え予想し、最後は「なるほど」と実感できる授業の流れであった。
- ② 失敗しても大丈夫という安心できる学級づくりがなされていた。
- ③ 自分の考えを言葉で書いたり、話したりできた。そのための材料（電卓、ワークシート）は一人一人の学びを深めるよいツールだった。
- ④ 「自分で考える」、「友達の発表を聞く」、「グループで考える」がしっかりとつながっていた。その中で、一人一人の学びが成立していた。

4 成果と課題

<成果>

授業の中で、一人一人の学びを深めるとは、「課題把握」→「自力解決」→「振り返り」のプロセスで、個人の考えを全体で交流・検討し、「学び合い」を生かしながら、新しい価値を作ることである。また、「本時のねらい」達成のため、「児童生徒の実態」を受け、どんな「手立て」を講じて、「わかった」「できた」と感じさせるか構想することの重要性を共有できた。

<課題>

「課題設定」、「授業形態」、「学び合い」など一人一人に21世紀型の学力を身に付けさせるにはまだまだ工夫が必要である。今年度の活動をきっかけとして、授業力の向上に励んでいかなければならない。